

令和7年（2025年）度 学校経営シラバス

北海道札幌月寒高等学校（全日制）

<p>【校訓】 自主自立 親和協力</p> <p>【スクール・ミッション】</p> <p>(1) 社会を牽引する存在となるために必要な高い資質・能力と豊かな心を持つ生徒の育成</p> <p>(2) 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成</p>	<p>【学校教育目標】</p> <p>(1) 確かな自己実現を目指し、主体的に課題を発見・解決しようとする資質・能力を育む。</p> <p>(2) 広い視野と豊かな人間性を持ち、協働的に社会の発展に寄与しようとする態度を育む。</p> <p>(3) 進んで心身を鍛え、粘り強く逞しく生きようとする活力を育む。</p> <p>【育成を目指す資質・能力】</p> <p>&lt;知識・技能&gt; ○論理力 ○分析力</p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt; ○想像力 ○創造力 ○発信力</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性&gt; ○自律力 ○行動力</p>
---	---

観	対 象	中 期 目 標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
教育活動	学習指導	◎学ぶ意欲を喚起するきめ細やかな学習支援・学習指導	○カリキュラム・ポリシーに則った教育課程の編成及び実施  ○「主体的・対話的で深い学び」の実践を通じた自主的な学習態度の育成 ○「令和の日本型教育」に示された個別最適な学びと協働的な学びの実践、及びそれらを支える ICT の有効活用	□卒業後の進路に求められる資質・能力を着実に育成できる教育課程を編成・実施し、グラデュエーション・ポリシーに示された7つの資質・能力を育成しているか □指導と評価の一体化の観点から、観点別評価を適切に実施し、指導方法の工夫・改善に生かすことができたか □教科横断的視点から、総合的な探究の時間を中心に、3年間を見通した探究的な学びの充実が図られたか □生徒による授業評価の実施・分析を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」に係るアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善が図られたか □個別最適な学びと協働的な学びの実践、及びそれらを支える一人一台端末の活用が図られたか
	生徒指導	◎豊かな人間性を育む発達支持的な生徒支援・生徒指導	○基本的な生活習慣の確立に努め、自ら規範意識をもって自己管理できる能力の育成 ○特別活動や課外活動等を通じた主体性や社会性の育成 ○いじめの撲滅	□自主・自立の校風の中で自己管理を促し、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、自律性を身に付けさせることができたか □親和・協力の精神で主体性や社会性、豊かな人間性を育むことができたか □お互いに人格と個性を尊重し支え合い、多様な在り方を相互に認め合える人間関係の形成を通じて、いじめ撲滅を図ることができたか
	進路指導	◎主体的な進路選択と個々の進路実現を目指す進路支援・進路指導	○進路相談や進路学習を充実させ、自己理解に基づく主体的な進路選択の促進 ○学年や教科との連携を密にし、生徒一人一人の能力・適性に応じた進路実現の支援 ○低学年から進路意識の高揚を図り、計画的に進路実現に取り組む態度の育成	□生徒が主体的に確かな自己実現を図るため、充実した進路情報を早期から提供することができたか □進路指導体制の充実に取り組み、様々な入試制度を活用し生徒や保護者の期待に応える進路希望が実現できたか □3年間を見通した系統的で継続的な進路指導を行い、進路意識を高揚できたか
	健康・安全指導	◎自他の健康と安全を目指す健康支援及び健康・安全指導	○学年・分掌並びに家庭・地域社会との連携を密にして健康支援及び健康・安全指導の充実及び事故の未然防止 ○心のふれあいを基盤とする教育相談の推進及び、生徒理解の深化 ○環境美化に係る指導の充実及び、自然や公共物を大切にする態度の育成	□心身ともに健康な生徒を育成するため、健康・安全意識を高める啓発活動を行い自律性を育むことで、事故の未然防止に努めたか □外部機関とも連携した教育相談や生徒理解の取組を充実させ、不登校等の早期発見と組織的な支援を行うことができたか □安全・防災の観点から教育環境の維持向上を図るため、施設設備の日常的な点検整備を行い、改善に努めたか
学校運営	運営	◎学校課題の共有及び課題解決に向けた協働体制の充実	○PDCA のマネジメントサイクルによる教育活動の改善・充実  ○組織的・機能的な協働体制の充実	□経営方針や教育目標を明示し、各種反省会議や学校評価を適切に行い課題を明確にすることで、教育活動の改善・充実を図ることができたか □分掌・学年及び職員間の連携を図り、校内研修会等を効果的に活用し協働して課題解決に取り組むことができたか
	連携	◎保護者、地域、関係機関等との効果的な連携体制の充実	○関係機関との連携による教育活動や諸行事の円滑な運営 ○地域や保護者への教育成果の周知及び普及	□地域や PTA 等関係機関との連携を図り、教育活動や諸行事の円滑な運営に努めたか □地域への情報発信や学年・学級からの情報発信の充実など地域に開かれた学校づくりが図られたか
	働き方改革	◎健康でやりがいを持って勤務する合理的・機能的な労働環境	○「北海道アクション・プラン」の推進	□公立学校の教師の勤務時間の上限に関する指針（時間外の上限を「月 45 時間内、年 360 時間内とする」）を遵守できたか